

サイキック・チャネラー

ケビン・ライアーソン

Kevin Ryerson

ライトワークとは 源泉の光に触れた結果

『アウト・オン・ア・リム』（シャーリー・マクレーン著）に登場するチャネラー、ケビン・ライアーソン氏。スピリチュアル・ワールドで30年以上の実績を持ち、常にスピリチュアルな視点で社会を見つめている。そんなケビン氏に、ライトワークの本質について語ってもらった。

協力：伊藤仁彦
Special thanks to Yoshihiko Ito
www.yoshihikoito.com



ケビン・ライアーソン

Kevin Ryerson

超心理学、スピリチュアリティの分野で30年を超える経験を持つ。アメリカのオプラ・ウィンフリーショー、グッドモーニング アメリカなどにも出演。アメリカの女優シャーリー・マクレーンの『アウト・オン・ア・リム』『ダンシング・インザライト』『イツ・オール・イン・ザブレイン』などの著作にも登場している。

ブログ <http://www.williamandkevin.com/>
電話でのセッションの申し込み www.ibokjapan.com

意識の高まりとライトワーク。 その真髄に迫る――

今から約20年前、新しい思想を提唱した、ある一冊の本が誕生した。

アメリカの女優、シャーリー・マクレーンによって書かれた小説『アウト・オン・ア・リム』だ。地上にユートピアを構築するためのビジョンを示してくれた本書。その衝撃はたちまち世界中に広がり、大ベストセラーとなった。

今回、私たちは、本書に登場する世界的に有名なチャネラー、ケビン・ライアーソン氏と特別にコンタクトを取ることができた。

スピリチュアル・ワールドの先覚者として、彼はシャーリー・マクレーンと共に、スピリチュアリティの重要性を発信したという。現代のスピリチュアル思想の原点は、『アウト・オン・ア・リム』にあるといっても過言ではないだろう。それだけ、多くの人に働き

かけたのだ。

そして物質的な社会を重視していた人々の中に、「ホリスティック」という新たな価値観が生まれた。

今年に入りアメリカの元副大統領アル・ゴアの『不都合な真実』がアカデミー賞（ドキュメンタリー部門）を受賞した。「それは、社会全体がホリスティック的な物の捉え方をするようになったことを示している」とケビン氏はいう。

あらゆる分野で、人々の意識が変りつつある今。その変化とともに、近年スピリチュアル界では、ライトワークという言葉が盛んに言われるようになった。その本質について、ケビン氏は次のように語る。

――ライトワークとは、ハイヤーセルフと繋がった結果だと、私は考えています。臨死体験をした人が、明るい光をみて生還すると、より良い自分に気づき他者への奉仕に目覚めるといふ話を聞いたことがあると思います。この光こそ、ハイヤーセルフの光（源泉の光）、つまり自身のオリジナルの魂なのです。この光は私たちに備わっている各チャクラから放出されているのです。

チャクラの色（赤、オレンジ、緑、青……など）が全て合わされると、白い光になります。これをピュア・ソウル・エナジー（人々のオリジナルの魂）といいます。オリジナルの魂には、ライトワークの資質が潜在しています。そのため、ここにアクセスすると物事の「全体性」に気づくことができるのです。

かつて私は、クライアントの農夫の

方に、瞑想の指導をしていたことがあります。瞑想を続けていくうちに彼は、自身のハイヤーセルフに触れることができ、霊性、スピリチュアリティが高まっていきました。すると彼の仕事に対しての取組みにも変化が現れたのです。人の体内に入る食物。それらの栽培に農薬を使う危険性を認識した彼は、農薬に頼ることをやめ、無農薬農法に切り替えたのです。彼は瞑想を通して、ハイヤーセルフに触れ、人間の根本にある繋がりに気づき始めました。その結果「他者への奉仕」という気持ちが芽生えたのです。この取り組みこそ、ライトワークといえるのではないのでしょうか。

奉仕の気持ち喚起する 瞑想の力

私のクライアントのように、瞑想を持続的に行うことで、私たちはハイヤーセルフに触れることができます。そうすると、過去世で得た自分の才能を見つかったり、より良い自分を発見できるのです。それが他者への奉仕につながり、社会全体への奉仕に発展していくのです。それは霊的な目覚めと言えるかもしれません。1日20分でも良いので、瞑想を持続的に実践してみてください。そして、あなたのライトワークの資質を開花して欲しいと思います――。



『アウト・オン・ア・リム』
シャーリー・マクレーン 著
山川紘矢・亜希子 訳
角川書店
880円（税込）